

普及活動情勢報告

情勢報告（平成28年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

四万十町産米のブランド化に向けて！ ～現地巡回、意見交換会の開催～



現地ほ場巡回の様子

9月26日、四万十町産米のブランド化に向けて産業振興アドバイザー（実需者）を招き、現地ほ場の巡回とJA四万十本所で意見交換会を開催し、関係機関や生産者13名が参加しました。

ほ場巡回で生産者と本年度の栽培状況や収穫時期を確認する中で、普及所は本年度の気象の特徴や生育状況、病害虫の発生等について情報提供しました。

その後、全国の米穀情勢や、新品種等の情報共有、新米を試食し、ブランド化に向け意見交換しました。

普及所では、今後も四万十町産米のブランド化の推進に向け、JA四万十等と連携し支援していきます。

飼料用米の生産拡大に向けて ～地区別飼料用米説明会の開催～



飼料用米説明会の様子

10月18、19日、飼料用米生産拡大に向けてJA四万十興津支所及び本所で飼料用米の説明会を開催し、関係機関や生産者等合わせて44名が参加しました。

説明会では、飼料用米の更なる生産拡大に向け、国の経営所得安定対策や飼料用米栽培、専用品種の特性等について説明しました。

普及所は本年度の気象の特徴や、飼料用米の生育状況、病害虫の発生等について情報提供しました。

普及所では、今後も飼料用米生産拡大に向け、関係機関と連携し増収技術の普及を支援していきます。

ショウガの栽培技術向上及び生産振興 ～生姜部会圃場共進会の開催～



ほ場審査の様子

10月11日、生姜部会圃場共進会が開催され、農家14戸の各ほ場を生姜部会役員や、JA、普及所職員13名が審査しました。

審査したほ場はいずれも病害虫防除や肥培管理、除草作業等が行き届いており、優良なほ場ばかりでした。その中には、白星病やハスモンヨトウの食害、塊茎の露出等が一部見られるものもありましたが、いずれも株張りや作柄は優れており、高収量が見込まれるほ場ばかりでした。審査の結果、4戸が優秀ほ場として表彰されることになりました。

今後、更にJA四万十と連携し、農家の栽培技術向上に向け支援していきます。

ユズの品質向上を目指して～ J A 高知はた十和支所柚子部会出荷目慣らし会の開催～



出荷目慣らし会の様子

10月14日、J A 高知はた十和支所柚子部会の出荷目慣らし会が開催され、生産者19名が参加しました。

ユズの本格的な出荷シーズンを前に、収穫時の着色程度などについての意識の共有を図りました。

昨年度は、出荷物に腐敗果が発生したことから、本年は例年よりも早く6～7分着色で収穫して保管し、十分着色した後に出荷することになりました。収穫作業は特に丁寧に行い、果実を傷付けないよう細心の注意を払うよう呼びかけました。

普及所は、J A 高知はたと連携して、農家の栽培技術向上に向け支援していきます。

産地提案型新規就農対策の推進～JA高知はた大正支所園芸部スプレーマム部会定例会～



定例会の様子

10月7日、J A 高知はた大正支所園芸部スプレーマム部会の定例会が開催され、生産者5名が参加しました。

J A、役場、普及所から本県の新規就農対策の取組状況についての説明を行い、産地提案型によるスプレーマム部会での新規就農者の受入について協議を行いました。

生産者からは「出荷が途切れないように産地として一定の生産量は確保したいので生産者は増やしたい」という意向も聞かれ、部会で産地提案書を作成し、新規就農者を受入れていくことについての合意が得られました。

普及所は、J A 高知はたや役場と連携して、産地における受入体制の整備、産地提案書の作成に向け支援していきます。

広域営農組織の育成 ～（一社）しまんと農楽里の事業計画検討会の開催～



十和、大正地区の農業振興について協議

10月20日、四万十町役場十和地域振興局で、（一社）しまんと農楽里の「中山間農業複合経営拠点」化に向けた事業計画について、しまんと農楽里とJ A 高知はた、普及所の職員計10名で協議しました。

普及所からは、地区の主要作物である水稻、茶、ユズ、クリの年間の作業工程を示し、各作物の労働力等の課題について検討しました。短期的には、米、ユズ産地を支えるため、水稻の育苗事業やユズ栽培に取り組んでいくことを確認しました。

普及所は、J A 高知はたや役場と連携して、しまんと農楽里が産地を支え、雇用を生む仕組みづくりの核となる組織となるよう支援していきます。